

## 「高校野球の心を求めて 公立魂 鷺宮高校野球部の挑戦」

（田尻 賢誉著 日刊スポーツ出版）

この著書は、強豪校がひしめく埼玉県の中で、公立校でありながら常に埼玉県大会で上位入りする鷺宮高校野球部の歴史を描いた本であります。高野和樹監督が「鷺宮らしさ」をどう考えているか、エース増淵竜義投手（東京ヤクルトスワローズ）をはじめとする選手たちがそれをどう実現してきたかなど、チームカラーを作る過程を示す鷺宮高校野球部の魅力に迫ったノンフィクション作であります。

150キロ近いストレートとスライダーが持ち味の増淵竜義投手を配した2006年の闘いぶりを中心に、甲子園への飽くなき挑戦と、高校野球としての精神の鍛え方について描かれています。

毎日、終電までの厳しい自主練習の果てに、レギュラーとキャプテンを負かされた少年。

礼儀と挨拶の大切さ、常に全力投球の精神。

メンバー外も含めた全員野球。

熱いハートと高校野球の壮絶な舞台裏。

など、野球にかける指導者と選手たちの情熱が、ひしひしと伝わってくる本であります。

あまり本を読む機会が少ないため、多くの方々が読まれたことと思いますが、「熱い野球」という言葉に引き寄せられ、そういった野球をやりたい、選手たちと向き合っていこうという気持ちが、この本を読み終えた後沸き起こり、現在に至っております。

### 本書のなかに出てくるキーワード

#### 鷺高格言その1～30

その1・・・ はきもの

その2・・・ いい選手である前にいい生徒であろう いい選手である前にいい人間であろう

その3・・・ ものにも命がある

その30・・・ いいチーム 強いチーム 勝つチーム そのすべてを目指し日々戦っていこう

双葉高校野球部のモットーに、「挑戦・感謝・犠牲心」という言葉があるのですが、今回の震災で、たくさんの方々に感謝しながら野球を続けていくことができました。ただし自分の心が強くなったかどうかは、疑問に感じるものが日々あります。生徒に押しつけるのみならず、私自身、あきらめない気持ち（挑戦）、苦しんでいる人を助けることができる人間性（犠牲心）を持つ人間になろうと努力しております。